

『紫白の猛き徴』

花園へ向けて



主将 機械科三年 佐々木哲平

昨年、一昨年と花園出場を逃した悔しさを胸に秘め、新チーム結成時に「全国制覇」という目標を掲げました。

全県新人、東北新人を制し迎えた全国選抜大会では予選リーグの初戦で伏見工業に敗れ、残念ながら予選突破はなりません。課題は多く見えたものの通用する部分も多くあり、また、何よりも全国の舞台で試合経験を積むことができました。大会を通して特に、ディフェンスを磨いていかなければならないと実感し、これまで以上に意識して練習に取り組みました。その成果もあり、全県総体では優勝することができました。しかし、東北新人に続く優勝を目指した東北大会では自分達の緩い気持ち甘いプレーに繋がりが、三位という不本意な結果に終わってしまいました。この敗戦はもう一度、ひとりひとりが自身の行動を省みる良い機会となりました。

限界からの挑戦を目標に、心身を鍛えた夏の強化練習を経て臨んだ菅平合宿では、全国の強豪校との対戦を重ねるうちに、自分達のやるべき事が徹底され、自信を持ってプレーをすることができました。この夏を通して数段階アップすることができ、全国でも自信を持って戦えるというのを確信しました。

花園予選まで残りあとわずかとなり

ました。チーム、個人共にまだまだ改善できる部分も多くあり、残された期間の中で、アタック力やディフェンス力は勿論、エリアマネジメントなども徹底し、更なるレベルアップをして臨みたいと思います。また、たくさんの人々に支えられる事でこうして思い切りラグビーに打ち込むことができている。全てのの方々に対する感謝の気持ちを胸に秘め、花園予選に向かいます。チーム一丸となり、必ず勝利するという信念を胸に刻み、花園への切符を掴み取ってきます。そして、最高の仲間と共に十六回目の優勝を達成し、秋田工業高校ラグビー部の新たな歴史を創ります。

花園へ



副主将 電気エネルギー科三年 猿田 湧

伝統のあるラグビー部に入部して二年半が経ちました。厳しい練習に取り組み、日々力がついてきているということを実感しています。しかし、秋工ラグビー部はこの二年間、花園予選の決勝で秋田中央高校に敗れ、花園に出場することができていません。その悔しさを胸に秘め、冬期間は体作りとチームスタイルの確立に力を入れ、基礎から徹底的に鍛え直してきました。その結果、東北新人大会では優勝することができました。また、全国選抜大会においては伏見工業には敗れたものの深谷、大分舞鶴に勝利し二勝することができ、徐々に成果を感じられるようになってきました。ここで得た経験を活かして、全国トップレベルのチームに勝つために練習に取り組みんでいます。自分達の心の甘さも、東北総体では三位という残念な結果になっ

てしまいました。そこで精神面の甘さを無くすため、練習だけでなく、日々の生活や挨拶といったグラウンド以外の部分を一から見直しました。そのおかげもあり、チームの団結力も増し、力もついてきていると感じています。花園予選では、これまで指導してくださった監督、コーチ、OB、支えてくれた両親や応援してくる全ての方々への感謝を忘れず、秋工らしく激しく、気合いの入った試合をし、まずは花園への切符を掴みます。

三度目の正直



FWリーダー 機械科三年 濱野 隼也

一昨年、昨年と花園予選決勝で秋田中央高校に敗れ、悔し涙を流してきました。試合が終わってからは無力感に苛まれ、「自分からボールをもらいにいってれば」、「チャンスの場面でもっと突破できていれば」と後悔してばかりでした。

新チームになってからは、これまで以上に前面に立つてボールを受け、チャンスを作り出すという意識を持ってプレーするよう心がけました。ポジションが変わったとしても自分のスタイルを確立させ、チームを引っ張ってきました。また、他の選手とのコミュニケーションを密にすることで少しずつチーム力が上がってきたように感じます。菅平合宿では全国の強豪チームと同等以上に闘うことができました。しかし、全国優勝を目指すためにはまだまだ、課題も多く、秋工の武器を更に磨いていかなければならないということも実感しました。

私たち三年生は泣いても笑っても今

年が最後の年になります。目標である全国優勝を二度も逃しているため、三度目の正直で、全国優勝を掴み取ります。

秋工ラグビー部の一員として



一年生代表 土木科 土肥 恵太

私たち一年生十九名が入部し、半年が経ちます。秋工ラグビー部は全国優勝を目標に日々の練習に取り組みんでいます。しかし、入部したばかりの頃は、体も小さく未熟で、何をすれば良いのかもわからずに過ごしていました。その様な時に、先輩達が優しく支え、挨拶や規律を指導してくれました。また、熱心に指導してくださる先生やコーチ、OBの皆様のおかげもあり、今では伝統ある秋工ラグビー部の一員としての自覚をひとりひとりが持っています。

一年生は始めに、パスやキャッチング、コンタクト面の基本的なスキル等の練習を行いました。練習を重ねていくにつれ、自分達のスキルが向上し、夏合宿では練習してきたことを出し切ることができ、自信にもなりました。しかし、菅平合宿では全国の強豪チームとの対戦を通じ、まだまだ力不足だと感じました。ひとりひとりが今以上に努力し、また、高め合うことでスキルはもろろん、心も体も成長できるように頑張りたいです。

まもなく花園予選が始まります。三年生は厳しい練習を乗り越えてきました。ここで終わるわけにはいきません。全員で声を掛け合い、体を張って勝利を掴み取りましょう。そして、花園に出場し、全国優勝できるように私たち一年生も全力でサポートします。